

# 山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 L: 矢古宇 SL: 西

2. 山城/ルート 劔岳 八峰上半縦走

3. 交通手段 自家用車 等

4. 行動記録 <入山日 2017年8月12日(土) 下山日 2017年8月14日(月)>

第1日 (8月12日(土))

7:30 ケーブルカー乗車 → バス → 9:00 室堂ターミナル 雨のため停滞

11:00 出発 → 雷鳥荘 → 劔御前小舎 → 14:00 劔沢 (泊)

第2日 (8月13日(日))

3:00 出発 → (劔沢雪渓) → 4:05 長次郎谷 → 6:00 VVIの科尔下部 →

7:30 VI峰 → 9:00 VII峰 → 10:00 VIII峰

→ 10:55 八峰の頭 (懸垂下降待ち約1時間) → 14:00 劔岳山頂

→ 17:00 劔沢 (泊)

第3日 (8月14日(月))

5:00 出発 → 5:50 劔御前小舎 → 7:00 雷鳥荘 → 7:30 ミクリガ池温泉

→ 8:00 室堂ターミナル

## 5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか?

雨予報のため、神戸出発を10日(木)夜から11日(金)昼に変更し1日スライドさせた以外は、ほぼ予定通り

b) 事故に繋がりそうな要因 (ヒヤリハット) が発生したか?

特になし

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか?

## 6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

・雪渓からVVIの科尔への取り付きを見逃し、登りすぎた。

・懸垂下降地点は、支点シュリングに残置カラビナがあり、ロープセットしやすくなっていた。数カ所の懸垂下降地点はクライムダウンも可能とのこと (ネット情報では、VI峰: 20m×1、VII峰: 15m×1、VIII峰: 10m×2、八頭: 15m×1)。が、ざれていたり、足場が悪かったり、懸垂待ちがあっても懸垂下降の方が安全の様に思えた。

・八峰の頭から先の北方稜線、ルートがわかりにくかった (○印は見つけられず)。

.....

①DVD では、5.6の科尔からの登りと、八ツ峰の頭への登りでロープを使用していたので、当初この2箇所でのロープ使用(登り)を考えていた。しかし私たちと同時に科尔に到着した3人パーティーが先行し、ロープ使用で登っていたが、ランニングが取りにくそうで

あったし、同ルートより左のガリーを登る方が簡単そうに見えたので、Yさんと確認の上、ロープを使わず左ガリーを登ることとした。

②八ツ峰の頭への登りについても、先行パーティーがロープを使用せず登っており、登れそうだったのでロープは使用しなかった。

結局、登りについては、ロープは使用しなかった。

③懸垂下降は、D フェースの頭からと、六峰頂上から、七峰の下り、八峰の下り、八ツ峰の頭からの下りの計五回ほど行ったと思う。

④八峰の下りからの懸垂下降は、途中ギャップがあり懸垂下降地点を確認しながら下降する必要があった。振られるので注意が必要。ここで、ロープ回収が困難となり、後続パーティーに落としてもらった。ほんとうに助かった。

⑤八ツ峰の頭からの懸垂は、渋滞となった。学生パーティーが2回に分けて懸垂を行ったため時間がかかった。次のパーティーは50M 2本での懸垂をした。渋滞のため、クライムダウンで降りるパーティーも2パーティーいた。私たちは、60m 1本だったので、それで降りられるところまで懸垂下降し、そこからはクライムダウンした。

⑥懸垂下降による落石を避けるため、ロープを袋に入れ、出しながら降りる方法は、効果的だった。ロープが絡まることもなかった。

⑦池ノ谷乗っこしから劔本峰までのルート研究が甘く、マーキングがされている思っていたが、されておらず、行きつ戻りつをしながら、後続者などと助け合いながら進んだ。

⑧長次郎谷の雪渓は非常に状態がよく、歩きやすかった。5.6の科尔まで、予定より1時間程度早く到着できた。

#### 【感想】

今年もチンネ左稜線は相棒がなく、行けなかった。八ツ峰もYさんの体調次第のところがあり、直前まで不安だった。

また、お天気も悪く、直前に1日延期を決め、今年もアクシデントがっぱいのスタートとなった。しかし、本番当日はお天気に恵まれ、雪渓の状態もよく、絶壁に囲まれた、すばらしい風景と出会えた。これは八ツ峰に登らないと見ることのできない風景である。

初めてのルートを登ったり、懸垂下降するのは、不安と緊張でいっぱいだったが、これまでの経験を活かし、Yさんと二人で縦走できたことは次へのステップアップに充分つながった。渋滞の時間、他のパーティーとの交流も楽しかった。北方稜線を一緒に歩いてくれるはずの二人パーティーは、渋滞を待ちきれずクライムダウンしてしまい、私たちは取り残されてしまったが、懸垂下降の仕方や、ロープさばきなど他のパーティーの方法を眺めるのも面白かった。

チングルマも咲き乱れていたし、雷鳥にも会えたし、八ツ峰上半部からの風景は最高だった。源次郎尾根、チンネ左稜線、クレオパトラニードル、熊の岩などが、本当に間近に見える。また行きたいコースとなった。同行者のYさんに感謝します。(にし)

矢古宇：

- ・最初は八ツ峰6峰 C フェースを希望していたが、直前の首～左肩の痛みのためクライミング練習が十分にできなかったこともあり、歩きがメインの八ツ峰上半縦走に変更した。モチベーションが上がらないまま、前日に西さんから八ツ峰縦走 DVD を借りイメージを掴もうとしたが、逆に不安が増大、緊張感が一気に高まってしまった。
- ・劔沢雪渓は雪がたっぷり、昨年よりも歩きやすく、長次郎谷まではスムーズだった。雪渓の登り、私はそうそうに息が切れ、バテ気味だった。西さんはスーッと登っていく。何度も何度も休みながらそれでもなかなか追いつけなかった。体力の差を改めて感じた。
- ・雪渓からVVIのコルに上がり、その先、DVD ではロープを出しており、先行パーティーも念のため(?) 出していた。西さんに確認されたものの、出さずに登ることにした。最初の登りの岩稜、緊張しながら慎重に進んだ。6峰フェースを登ってくる人達がすぐそこだった。ルートはある様ない様な…で行きつ戻りつ? もした。登山靴のためフリクションもよくなく、岩場を身体を支えに力で登る様などころもあり、西さんに励まされながらなんとか通過したりもした。ここでもバテ気味だった。
- ・途中、チンネがクッキリと見え、取り付いている人達が続々と登っていった。向かいの源次郎尾根もよく見え、思わず声を掛けてみたりもした。
- ・8峰に到着し、8峰の頭で懸垂待ち。その先の北方稜線、ルートはわかりやすいかと思っていたがウロウロし、後続のパーティーに教えて貰い、なんとか劔岳山頂に辿り着けた。そして、そこから劔沢までの3時間余り、気持ちが萎えそうになった。
- ・今回、山行当日はお天気にも恵まれ、西さんに励まされながらもこの八峰上半を歩けたことは、いい経験であり、よかったと思う。西さん、ありがとうございました。
- ・技術もさることながら、体力、精神力共に、まだまだということを痛感した。来年に向けて、トレを重ねていきたいと思う。

報告者氏名：矢古宇靖子

2017年9月7日



八ツ峰上半をバックに



チンネがクッキリ！アリの行列  
のような---

歩いてきた八ツ峰



八ツ峰の頭で満面の笑み！